

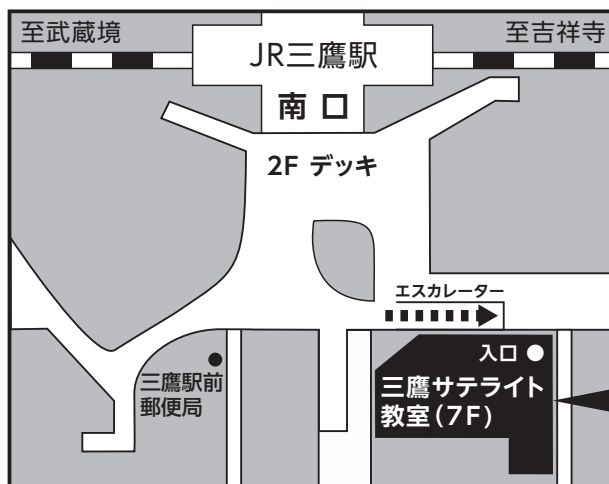
# 経済の仕組みと金融商品のリスク

|              |  |  |        |
|--------------|--|--|--------|
| 受講料<br>(振込額) | 12,500円  |  |        |
| 必携テキスト       | ――   |  |        |
| 講座概要         | 曜日   | 火曜日  |        |
|              | 時間   | 15:00～16:30  |        |
|              | 回数   | 全5回  | 定員 40名 |
|              | 開講場所   | 三鷹サテライト教室 7F / 大教室   |        |
| 講師           | 経済学者・慶應義塾大学名誉教授・元本学教授、<br>EY新日本有限責任監査法人社外評議員・東京地裁専門委員 <b>深尾 光洋</b> (ふかお みつひろ)  |  |        |
|              | 1951年7月 岐阜市に生まれる<br>1974年3月 京都大学工学部卒業<br>4月 日本銀行入行<br>1978年9月 ミシガン大学経済学部博士課程に入学<br>1981年5月 同大学Ph.D.取得<br>1981年6月 日本銀行 金融研究局(現、金融研究所)<br>1983年8月 経済企画庁 調査局<br>1985年9月 O.E.C.D.経済統計総局 金融財政政策課エコノミスト<br>1987年9月 日本銀行 金融研究所調査役<br>1989年7月 同 外国局調査役<br>1991年7月 O.E.C.D.経済局 通貨金融課シニア・エコノミスト<br>1994年5月 日本銀行 調査統計局企画調査課長<br>1996年5月 日本銀行調査統計局参事<br>1997年4月 慶應義塾大学商学部教授(～2017年3月)<br>1999年4月 日本経済研究センター主任研究員(兼任)(～2010年3月)<br>2005年6月 日本経済研究センター理事長(兼任)(～2010年5月)<br>2011年7月 経済産業研究所プログラムディレクター(兼任)(～2016年3月)<br>2017年4月 武蔵野大学経済学部経済学科教授(～2022年3月)<br>2019年8月 EY新日本有限責任監査法人社外評議員 監査委員長(現職、兼任)<br>2020年9月 東京地方裁判所 専門委員(現職、兼任) | [主な著書・論文]<br>1983年「為替レートと金融市場」東洋経済新報社(日経経済図書文化賞受賞)<br>1990年「実践ゼミナール国際金融」東洋経済新報社<br>1995年 Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies, Brookings<br>1997年「企業ガバナンス構造の国際比較」日本経済新聞社(森田泰子氏との共著)<br>1998年「財政投融資の経済分析」日本経済新聞社(岩田一政氏との共編著)<br>1999年「コーポレート・ガバナンス入門」、ちくま新書<br>2000年「ゼロ金利と日本経済」、日本経済新聞社(吉川洋氏との共編著)<br>2001年「日本破綻」、講談社現代新書<br>2003年「検証銀行危機」、日本経済新聞社(日本経済研究センターとの共編著)<br>2003年「生保危機の真実」、東洋経済新報社(日本経済研究センターとの共編著)<br>2006年「中国経済のマクロ分析」、日本経済新聞社(編著)<br>2010年「国際金融論講義」、日本経済新聞出版社<br>2012年「財政破綻は回避できるか」、日本経済新聞出版社<br>2014年「金融財政システム危機の発生メカニズムと予防・対処方法」、澤田康幸編『巨大災害・リスクと経済』第7章、日本経済新聞出版社<br>2018年 "Financial Market Efficiency: A Comparative Perspective," in Dongchul Cho, Takatoshi Ito, and Andrew Mason ed., Economic Stagnation in Japan: Exploring the Causes and Remedies of Japanization, Edward Elgar Publishing.<br>2022年 "Is There a Trade-off between COVID-19 Control and Economic Activity?: Implications from the Phillips Curve Debate," Asian Economic Policy Review, Volume 17, Issue 1, January. |        |
|              | ※内容は裏面をご覧ください。   |  |        |



|     |   |
|-----|---|
| 内 容 | <p>金融商品には銀行預金のように元本割れのリスクがほとんどない商品もある。しかしそれでも、物価上昇でその実質的な価値が低下する場合がある。株式、社債、海外の金融資産の場合は、高い利回りが得られる可能性がある反面、発行会社の倒産、株価の変動、為替相場の変動などのリスクがある。この授業では、株式会社の仕組み、金利や為替相場の変動要因、中央銀行や政府財政の状況みを理解することで、経済の変動が金融商品の価値にどのように影響するかを理解できるようにしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会社の仕組みと倒産制度</li> <li>2. 株式の価値と会社の成長力</li> <li>3. 為替相場の変動要因</li> <li>4. 金融政策の仕組みと量的緩和・ゼロ金利</li> <li>5. 経済危機の歴史と背景</li> </ol> <p>【持ち物】パソコンかタブレット端末を持ってくると便利です。<br/>※ 講義では毎回資料を配布します。</p> |
|     | <ol style="list-style-type: none"> <li>①7月 9日:会社の仕組みと倒産制度</li> <li>②7月23日:株式の価値と会社の成長力</li> <li>③8月27日:為替相場の変動要因</li> <li>④9月10日:金融政策の仕組みと量的緩和・ゼロ金利</li> <li>⑤9月24日:経済危機の歴史と背景</li> </ol>   |

## 武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013  
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12  
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線  
東京メトロ東西線  
JR 三鷹駅 南口より徒歩1分

**三鷹三菱ビル 7F**  
(三菱UFJ銀行のビル)

**1F入口からお入りください**

- 「受講の手引き」を必ずお読みの上、ご参加ください。